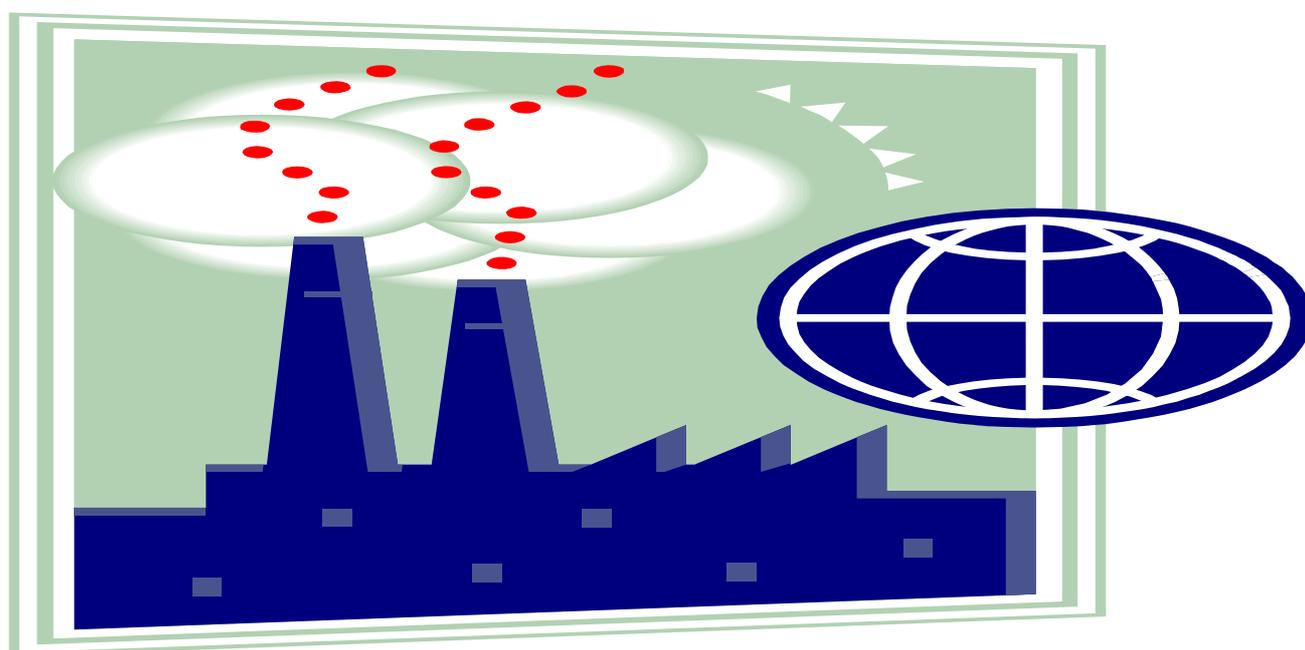


2022 年度

エコアクション 21 環境経営レポート



活動期間：2022年4月1日～2023年3月31日

発行日：2023年5月1日

サワダ工業株式会社

—目次—

1. 組織の概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標（中期目標を含む）
5. 環境経営計画（実施体制を含む）
6. 環境経営目標に対する実績値と評価
7. 環境経営目標と計画の結果と評価、
並びに次年度の目標計画
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、
並びに違反・訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直し・指示

1. 組織概要

事業所名	サワダ工業株式会社		
代表者名	代表取締役社長 澤田 靖		
所在地	愛知県知多郡武豊町多賀 7-6		
設立	1966 年 5 月		
資本金	1,000 万円	従業員数(EA21 基準)	36 名
売上高	56,890 万円 (2022 年 4 月～2023 年 3 月)		
生産量	756 t (2022 年 4 月～2023 年 3 月)		
床面積	1,249 m ²		
事業内容	自動車用電装機能部品、機構部品及びそれらの関連部品の製造 〈生産品目〉 ・車載用コネクタ ・排気ブレーキ用バルブ ・キー関連 ・コントロールワイヤー等		
主要取引先	株式会社東海理化電機製作所		
主要な設備	機械名		台数
	二重係止コネクタ自動組付機		10
	基板用コネクタ自動組付機		1
	エアーコンプレッサー(22kW)		1
環境管理責任者	澤田 康平		
環境事務局	経営管理室		

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

認証登録範囲	全組織・全活動
対象期間	2022年4月1日～2023年3月31日
レポート発行日	2023年5月1日

3. 環境経営方針

(1) 会社理念

当社の事業活動は、ステークホルダーの要求事項を満たす事に留めず、「感動」の言葉をいただける+αを追求する。

(制定日 2017年4月1日)

(2) 環境経営方針

地球環境保全は、全ての人間活動で最重要課題の一つとなっております。
サワダ工業株式会社は地域社会への貢献も理念に含んでおり、製造業を営む会社として以下の方針を策定し、環境負荷低減活動を積極的に取り組んでまいります。

- 一、製品及び製造工程における環境負荷低減に取り組めます。
- 一、事業活動により生じる環境への影響を把握・評価し、全社で継続的な改善に取り組めます。
- 一、全従業員の環境に関する知識の構築と改善意識の向上に努めます。
- 一、環境関連法規等の法令の遵守と内部統制の強化に努めます。
- 一、地域社会の一員として外部との環境コミュニケーションを深めます。

(制定日 2021年4月1日)

代表取締役社長 澤田 靖

4. 環境経営目標（中期目標を含む）

作成日：2022年4月1日

No.	取り組み項目	単位	基準年度	2022年度	2023年度	2024年度
	削減率(全数値項目)	%	2018年度	-4%	-5%	-6%
1	CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	62,102	59,618	58,997	58,376
	対生産量比・原単位	kg-CO ₂ / t	66	63	63	62
	電力使用量	kWh	135,421	130,004	128,650	127,296
	ガソリン使用量	ℓ	1,902	1826	1807	1788
2	産業廃棄物 (最終処分(埋立)量)	t	総排出量：0.26 最終処分量：0	最終処分量：0	最終処分量：0	最終処分量：0
	一般廃棄物	t	1.98	1.90	1.88	1.86
3	水使用量	m ³	153	147	145	144
4	環境負荷化学物質の 管理	化学物質使用量を把握し適正に管理できていること				
5	環境関連法規の遵守	環境クレーム0件				
6	環境への取り組みの自己 チェック項目の改善	進捗率 88% (取組チェックシート 631/714)				
7	環境に関する 社会貢献活動	地域の環境活動へ参画できていること				

※電力のCO₂排出係数は2019年度中部電力のCO₂排出係数0.426(kg-CO₂/kWh 調整後)を使用する。

※CO₂排出量計算については「エコアクション21ガイドライン(2017年版)」の「環境負荷チェックシート」に基づくものとする。

※産業廃棄物排出量の総排出量は参考値として記載する。

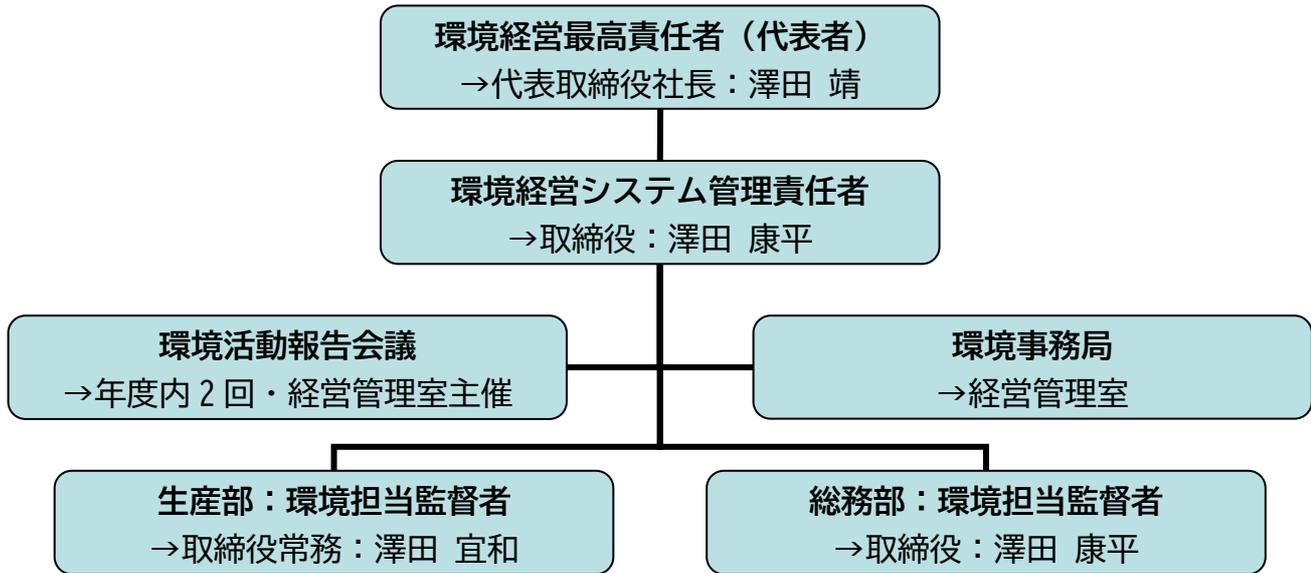
※軽油の使用量は客先車両による物流であり、当社分使用分からは除く。

5. 環境経営計画（実施体制を含む）

作成日：2022年4月1日

取組項目	製造部	総務部	取組内容と計画
電力によるCO ₂ 排出量の削減			
<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房機器使用時間、空調温度適正化 ・不要照明、非稼働設備の電源オフ ・昼休みの消灯 ・電灯のLED化 ・エアリーク点検・修理の実施 ・カーボンニュートラル取り組み教育の実施 	○	○	電力使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組の再確認と徹底を促す。
化石燃料によるCO ₂ 排出量の削減			
<ul style="list-style-type: none"> ・社有車の効率的な活用（積載、移動の効率化） ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用 	○	○	化石燃料使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
産業廃棄物排出量の削減			
<ul style="list-style-type: none"> ・工程内不良率の削減 ・生産効率の向上 	○	-	産業廃棄物排出量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
一般廃棄物排出量の削減			
<ul style="list-style-type: none"> ・紙ごみのリサイクル化の徹底 ・持ち込みごみの持ち帰り 	○	○	一般廃棄物排出量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
水使用量の削減			
<ul style="list-style-type: none"> ・節水活動強化月間（7月）の設置 ・節水コマの設置 	○	○	水使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
環境負荷化学物質の管理			
<ul style="list-style-type: none"> ・管理状態のチェック（使用量、保管方法等） ・環境負荷物質（SOC）教育の実施 	○	○	年1回、環境負荷化学物質の使用量、保管方法についてチェックし評価する。
環境関連法規等の遵守			
<ul style="list-style-type: none"> ・環境関連法等の点検、遵守状況の確認 		○	年1回、該当法規の点検と遵守状況の確認を行う。
環境への取り組みの自己チェック項目の改善			
<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の確認 ・グリーン購入の調査実施、推進活動 	-	○	年1回、環境への取り組みの自己チェックを行い、項目が改善されているか確認する。
環境に関する社会貢献活動			
<ul style="list-style-type: none"> ・会社周辺の清掃活動 ・徒歩、自転車通勤の奨励 ・地域リサイクル活動の支援 	○	○	社会貢献を常に意識し、定期的な社会貢献活動に取り組む。

実施体制



環境経営最高責任者（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システム管理責任者をはじめとする、必要な責任者の任命 ・環境経営システムの実施に必要な経営諸資源の準備 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 ・環境経営システムマニュアル、環境経営目標、環境経営計画の承認 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・環境経営レポートの承認
環境経営システム管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システム、環境経営システムマニュアルの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめを承認 ・環境経営目標、環境経営計画を確認 ・環境経営活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境レポートの確認と改訂指示、公開
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システム管理責任者を補佐し、エコアクション21を推進する ・環境負荷及び環境への取り組みの自己チェックを実施 ・環境経営システムマニュアルの改訂 ・環境経営目標、環境経営計画原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等の取りまとめと遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成
各部門環境担当監督者	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の管理範囲における全員参画での環境経営システムの運用
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

6. 環境経営目標に対する実績値と評価

評価：○目標達成 ×不十分

作成日：2023年4月1日

No.	取り組み項目	単位	基準年度	2022年度目標	2022年度実績	評価
	削減率(全数値項目)	%	2018年度	-4%		
1	CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	62,102	59,618	52,875	○
	対生産量比・原単位	kg-CO ₂ / t	66	63	70	×
	電力使用量	kWh	135,421	130,004	110,666	○
	ガソリン使用量	ℓ	1,902	1,826	2,470	×
2	産業廃棄物	t	総排出量：0.26 最終処分量：0	最終処分量：0	総排出量：0.24 最終処分量：0	○
	一般廃棄物	t	1.98	1.90	0.50	○
3	水使用量	m ³	153	147	138.5	○
4	環境負荷化学物質の管理	化学物質使用量が把握・管理できていること				○
5	環境関連法規の遵守	環境クレーム0件				○
6	環境への取り組みの自己チェック項目の改善	進捗率 88%				○
7	環境に関する社会貢献活動	地域の環境活動へ参画できていること				○

※電力のCO₂排出係数は2019年度中部電力のCO₂排出係数0.426(kg-CO₂/kWh 調整後)を使用する。

※産業廃棄物排出量の総排出量は参考値として記載する。

7. 環境経営目標と計画の結果と評価、並びに次年度の目標計画

評価：◎十分出来た ○ほぼ出来た △不十分

作成日：2023年4月1日

取組項目	製造部	総務部	次年度の取組内容と計画
電力によるCO₂排出量の削減			
・冷暖房機器使用時間、空調温度適正化	◎	◎	電灯のLED化は使用頻度の低いものを除き、完了していることから、次年度計画からは除外する。
・不要照明、非稼働設備の電源オフ	◎	◎	
・昼休みの消灯	◎	◎	
・電灯のLED化	◎	◎	
・エアー漏れ点検・修理の実施	○	-	
・カーボンニュートラル取り組み教育の実施	◎	◎	
化石燃料によるCO₂排出量の削減			
・社有車の効率的な活用(積載、移動の効率化)	◎	△	今年度の取組を継続する。
・急加速の抑制	◎	◎	
・冷暖房の控えめ使用	○	○	
産業廃棄物排出量の削減			
・工程内不良率の削減	△	-	今年度の取組を継続する。
・生産効率の向上	○	-	
一般廃棄物排出量の削減			
・紙ごみのリサイクル化の徹底	◎	◎	今年度の取組を継続する。
・持ち込みごみの持ち帰り	◎	◎	
水使用量の削減			
・節水活動強化月間(7月)の設置	◎	◎	今年度の取組を継続する。
・節水コマの設置	-	△	
環境負荷化学物質の管理			
・管理状態のチェック(使用量、保管方法等)	◎	-	今年度の取組を継続する。
・環境負荷物質(SOC)教育の実施	○	○	
環境関連法規等の遵守			
・環境関連法規等の点検、遵守状況の確認	-	◎	今年度の取組を継続する。
環境への取り組みの自己チェック項目の改善			
・進捗状況の確認	-	◎	今年度の取組を継続する。
・グリーン購入の調査実施、推進活動	○	○	
環境に関する社会貢献活動			
・会社周辺の清掃活動	○	◎	今年度の取組を継続する。
・徒歩、自転車通勤の奨励	○	○	
・地域リサイクル活動の支援	-	◎	

8. 環境関連法規等の遵守状況

作成日：2022年4月1日
 遵守確認：2022年3月31日 経営管理室

区分	関連法規等	規制の内容	遵守状況
水質	浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽設置後の外観検査・点検 ・定期検査（毎年1回の法定検査の実施） [対象設備：浄化槽]	○
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の確認（帳票類管理、適正処理、保管基準） ・産業廃棄物管理票（マニフェスト伝票）の管理 ・産業廃棄物管理票（マニフェスト伝票）の交付 ・廃棄物処理業者との委託契約の締結 	○
騒音・振動	騒音規制法 （県民の生活環境の保全等に関する条例）	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音特定施設の設置、変更の届出 ・騒音規制値以内 [対象設備：コンプレッサー（7.5kW以上/県条例3.75kW以上）]	○
	振動規制法 （県民の生活環境の保全等に関する条例）	<ul style="list-style-type: none"> ・振動特定施設の設置、変更の届出 ・振動規制値以内 [対象設備：コンプレッサー（7.5kW以上/県条例3.75kW以上）]	○
危険物	消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・消防用設備等の点検 ・危険物、可燃物の保管管理 	○
リサイクル	家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定家庭用機器廃棄物の排出時の収集、運搬又は再商品化等をする者への引渡し、必要な料金の支払い 	○
フロン	フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易点検の実施と記録 [対象機器：空調機器]	○

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規等は遵守されていました。
 尚、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

作成日：2023年4月1日 保管期間：5年

取組項目別の評価とコメント	環境経営システム管理責任者：澤田 康平		
① 環境経営目標とその達成状況			
[未達成項目]	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無		
[目標設定についての問題]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無		
【CO ₂ 排出量について】			
<ul style="list-style-type: none"> 生産量減少による効果もあるが、空調の温度設定の見直し、メリハリをつけた稼働により大きな削減に至った。 生産量減少に伴い、生産設備の効率的な稼働ができず、対生産量比の目標が達成出来なかった。 社有車のガソリン使用量が増加しているが、グループ会社からの部品入荷と半製品の出荷が増えたことが要因として考えられる。 			
【廃棄物排出量について】			
<ul style="list-style-type: none"> 紙ゴミの再資源化により、一般廃棄物量が大幅に削減された。 産業廃棄物については武豊町のごみ分別の厳格化により、廃プラ計上数が増加した。(焼却ということで最終処分量は0とする。) 			
【水使用量について】			
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は建屋漏水点検のため水を多く使用したが、今年度は突発的な水使用はなかったため、水使用量の目標が達成された。 			
② 環境経営計画の実施状況			
[取組についての問題]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無		
[次年度の取組]	継続		
③ 環境関連法規等の見直し・遵守状況			
[見直し]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無		
[遵守状況]	問題無し		
代表者による変更の必要性の判断・指示	代表取締役社長：澤田 靖		
① 評価結果			
[環境経営システム]	<input checked="" type="radio"/> 有効に機能している ・ <input type="radio"/> 機能していない		
[環境活動への取組]	<input checked="" type="radio"/> 適切 ・ <input type="radio"/> 一部適切でない		
② 変更判断			
[環境経営方針の変更]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	[環境経営目標の変更]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
[環境経営計画の変更]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	[実施体制の変更]	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
特記事項はありません。			
③ 総括と指示事項			
半導体不足等の影響による自動車減産による部品生産が減少したことにより CO ₂ 排出の絶対量は減少したものの、原単位では非効率な生産により悪化しました。 今後も不安定な生産状況が予想されることから、エネルギー消費のムダ削減に努めてまいります。			